

自治体間連携を議会も後押し

24日、杉並区役所では、区と区の交流自治体議会の議長・副議長が集まり、議会間の交流のあり方について、意見交換を行いました。こうした意見交換会は、今回が初めての取り組みで、今後も定期的に行っていくことにしました。

杉並区と杉並区の交流自治体8自治体は、東日本大震災で福島県南相馬市を支援した「スクラム支援」をきっかけに、様々な連携を深めています。そうした関係性から、交流自治体の議会間でも、意見交換や研修会を開くことで、議員の資質向上や交流の活性化を図ることになりました。

第1回の研修会は、杉並区で本日開催され、北海道名寄市議会、群馬県東吾妻町議会、福島県北塩原村議会、南相馬市議会、東京都青梅市議会、山梨県忍野村議会、静岡県南伊豆町議会、そして杉並区議会の代表者が参加しました。

まずは、昨年、リニューアルしたばかりの杉並清掃工場を視察。この清掃工場は、昭和41年、杉並清掃工場の建設計画が発表された当時、社会問題化していた公害の発生を懸念して、地域の人たちが建設への反対運動を起こしました。その一方で清掃工場は不足しており、家庭から出るごみは江東区の夢の島に埋め立てられている状態で、ハエの大量発生や悪臭が大きな問題となっていました。こうした中、住民と行政の話し合いにより杉並清掃工場建設のみちすじがつけられました。そうした地域住民の運動と和解までを記録した「東京ごみ戦争歴史みらい館」が併設されています。

その後、区役所に戻り、およそ1時間にわたり観光振興や議会改革、保育施策、高齢者施策などについて意見交換が行われました。杉並区議会の大熊議長は、「今後もこのような議論を重ね、自治体間の交流から、住民同士が親戚付き合いできるような関係を築けたら」と話しました。



[問い合わせ先]

区議会事務局：03-3312-2111 内線2301